

ントの対象者は八百津町の住民とされている。しかし、若者の定住促進を考えるならば、この施策の対象者は、町内ではなく、町外にいる若者がターゲットになる。したがって、町外にいる方の意見を反映することが、町外の若者へ八百津町をアピールするポイントになるのではないかと思う。

パブリックコメントを住民に限定するのではなく、施策によっては町外の方々の意見も聞くべきかと考えるが執行部の考えをお聞きしたい。

また、ホームページや広報などでコメントを求めても、若者はなかなか意見を述べないのではないか。LINEの公式サイトを開設してはどうか。

【答】 （青山総務課長）

パブリックコメントについては、八百津町でも10月から導入するよう準備を進めているところでありませぬ。

八百津町をはじめとして、どの団体も同様に、意見公募の対象者は「町民等」としており、「町民等」の定義は、①本町の区域内に住所を有する者、②本町の区域内に事務所又は事業所を有する個人、法人その他の団体、③本町の区域内に存する事務所又は事業所に勤務する者、④本町の区域内に存する学校に在学する者、⑤本町に対して納税義務を有する個人及び法人、

⑥パブリックコメント手続に関わる事業に利害関係を有する者と定めております。

「八百津町の基本的な計画」、「政策」あるいは「条例等」で、町民の方の生活や事業活動に大きな影響を及ぼすような政策などに対するものでは、八百津町のことをよく知っている、又は八百津町に関わっている方ではないかと思っております。そして、しばらく運用した後、必要に応じて、要項の改正も含め検討させていただきたいと思っております。

次に、「LINEの公式サイト開設」というご質問については、確かに昨年12月にLINE@（ライン・アット）というビジネス向けのサービスが始まっております。SNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）は、フェイスブックやツイッターをはじめ、様々なサービスがあり、多くの方の目に触れることや情報発信は可能だと思います。

しかし、パブリックコメントで意見募集を、ということになれば、計画案や条例案などをしっかり、また深く読み込んでいただいて意見をいただくということ、そのために30日間という期間を定め、住所・氏名等を明示していただくことが必須となっております。現在リニューアルして

ページをしております町のホームページを中心に展開して参りたいと考えています。

パブリックコメント制度における町外の方の意見という点については、すべての案件について町外の方に意見を求めるのではなく、「利害関係を有する者」という点を考えていけばどうか。

意見の提出がないことを前提とするのではなく、機会の創設ということとを念頭に置いて、結果として町外から意見が来なかったら、それはそれで良いかと思う。

LINEを使って、パブリックコメントを求めるということではなく、ホームページへ誘うための施策として、LINE、フェイスブック、ツイッターなどのSNSを活用されてはどうかと考える。

若者の定住の件については、町内の若者の町外流出を止めることが重要であり、町内の方の意見をお聞きすることが大切だと思います。町外の方からも「今後八百津に住んでみたい」という意味でご意見等がいただけたらありがたいと思います。

LINEの活用については、現在考えていませんが、今後検討していきたいと思っております。フェイスブックについては、観光協会が立ち上げていますので、

活用していきたいと思っております。

山田 勉 議員

Q1 未来トークの子ども達の提言について

「川のない町へなごろう」

8月10日に未来トークが開催され、その中で、中学生が考えた提言の一つは、人と人とのふれあいを大切にして、ゴミのない町づくりをしようでした。教育長は、この提言に対して、学校とどのような取組をしようと考えているのか。

【答】 （有賀教育長）

未来トークは、八百津町の未来を担う若者が大人に向けて発信し、住みたくなる町をつくらうとする願いで開催されています。

子どもの提言に対する取組ですが、ゴミのない町づくりについては、景観を守りふるさとを大切にする気持ちや、マナーを大切にする意識を育てる環境教育ととらえています。「ゴミを捨てる子はゴミを捨てない」、これは環境教育の重要さを象徴した言葉です。

学校では、「ゴミゼロ運動」等で実績を上げています。夏の花火大会翌日には、高校生がリーダーとなり、多くの町内児童生徒がボランティアでゴミ拾いやクリーンセンターで環境学習

をする活動をしました。

課題は、子ども達と地域の大人が、合同で環境を守る活動をする機会が少ないことです。また、タバコの吸い殻のように、大人が捨てたゴミを子どもが拾うということも多くあります。子ども達はルールを守っています。守らない一部の大人のマナー欠如を、地域と共に改革する取組を、小学校区単位でできるような皆様も力をお貸しください。

Q2 地域の活動に積極的に参加する町へなごろう

高校生の祭り参加について

【問】

八百津祭りも、近年、若い人が少なくなり、山車の引き手がなく困っている状態です。こうした時に高校生の参加はとてもありたいことですか。

こうした地域の活動に積極的に参加する町づくりについては、どのように考えるか。

【答】 （有賀教育長）

提言を出してくれた小学生が、「地域活動にもっと積極的に入るチャンスがあれば、住みたくなる町になる」と考えてくれたことに感謝を受けました。

地域の活動に子ども達が積極的に参加し、効果を上げるには、子ども達自身が計画の段階から参画する体制をつくることです。青少年育成や町づくり等の委員会、地域おこしの行事に、小中